



T-time

帝塚山学園広報誌

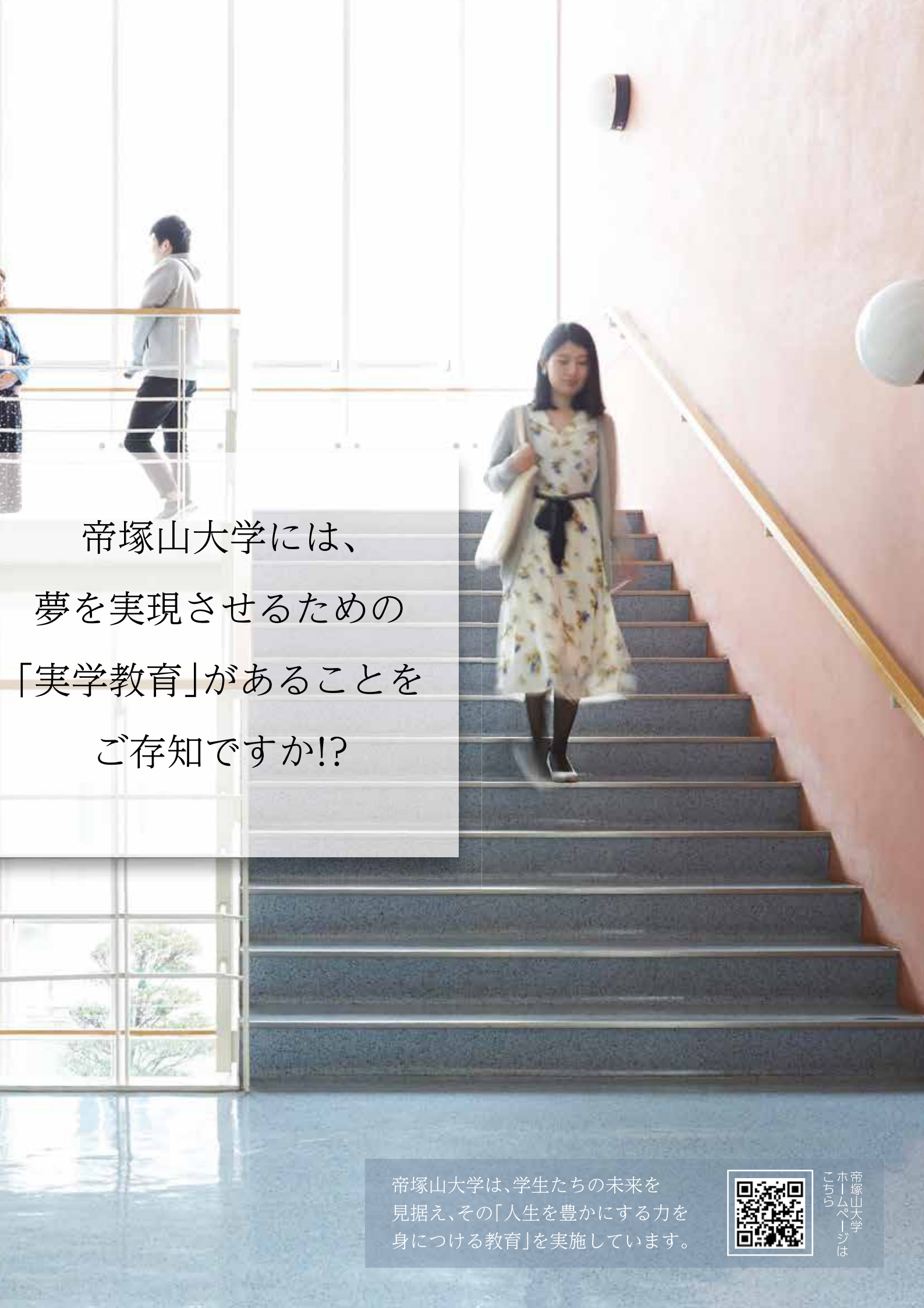
2019/Dec.

第7号

令和元年12月13日発行

帝塚山大学・帝塚山高等学校・帝塚山中学校・帝塚山小学校・帝塚山幼稚園





帝塚山大学には、
夢を実現させるための
「実学教育」があることを
ご存知ですか!?

帝塚山大学は、学生たちの未来を見据え、その「人生を豊かにする力を身につける教育」を実施しています。



帝塚山大学
ホームページは
こちら

Contents

大学

- 【特集】「帝塚山プラットフォーム」の構築による
学際的『奈良学』研究の推進 …… p03~06
- 活躍する卒業生 T-voice …… p07
- Topics …… p08

高等学校

- エンパワーメントプログラム …… p09
| 英語で討論&コミュニケーション
- Topics …… p10

中学校

- ぶどうゼリー作り …… p11
| 中学校×大学連携取組
- Topics …… p12

小学校

- 第47回帝塚山小学校音楽祭 …… p13
| 心を合わせて、奏で、歌う
- Topics …… p14

幼稚園

- 陶芸教室 …… p15
| 年中さんは「お皿」、年少さんは「動物」作り
- Topics …… p16

- 帝塚山アーカイブズ …… p17
- 中高同窓会だより …… p18



【T-time】(第7号)は、デザイン監修を、帝塚山大学居住空間デザイン学科 辻川ひとみ現代生活学部長、表紙デザインを、同学科 大里浩二准教授の協力を得て、作成しています。

T-time 第7号表紙
帝塚山大学 奈良・東生駒キャンパスイメージ画
イラストレーター/橋 隆生



文部科学省 平成29年度 私立大学研究ブランディング事業採択

「帝塚山プラットフォーム」の構築による

学際的「奈良学」研究の推進

文部科学省が、平成28年度から実施している「私立大学研究ブランディング事業」は、学長のリーダーシップの下に学際的な独自性を大きく打ち出す特色ある研究取組を重点的に支援するものです。

平成29年度に行われた同事業の公募では、帝塚山大学が地域において継続的に取り組んでいる「奈良学」研究が高く評価され、「『帝塚山プラットフォーム』の構築による学際的『奈良学』研究の推進」をテーマとして申請した取組がタイプA【社会展開】（実施期間3年間）に採択されました。

大学では、現在「奈良学」に関するさまざまな研究活動を地域において展開しています。

123校の申請から 平成29年度私立大学研究 ブランディング事業に採択

平成29年度に文部科学省が公募した「私立大学研究ブランディング事業」には、全国123の私立大学・短期大学が申請し、本学を含めて33校が採択されました。また、奈良県の大学としては、本学が初めての採択となりました。

本学が申請した事業は、奈良県全体を研究のフィールドとする本学独自の「奈良まるごとキャンパス®」構想にもとづき「帝塚山プラットフォーム」を構築し、学際的な「奈良学」研究を通じて、地域の活性化や創生に取り組みます。地域の拠点大学として長期間取り組んでいることが高く評価されました。

本学が提唱した 学際的「奈良学」研究とは

本学が推進する「奈良学」は、帝塚山短期大学の故・青山茂名誉教授が1980年代に独自に

提唱したものです。奈良を対象とした単なる郷土史や、従来の日本古代史ではなく、巨視的な「鳥の目」で全体を俯瞰し、日本の歴史文化における奈良の位置づけを考えるとともに、微視的な「蟻の目」で人々を洞察し、奈良を通して日本全体の歴史文化を考察するというものです。

奈良は、古代日本の中心地域としての側面と、中世以降現代に至る日本の一地域としての両側面を有しています。ローカルな視点に立脚し、グローバルな視野から世界を見ることが求められる現在、かつて日本文化の中心であり、グローバル都市であった奈良を研究のフィールドとすることに意味があると考えています。

約1300年に亘る歴史と伝統、世界に誇る3つの世界遺産を有する歴史文化地域という、奈良の特性を生かし、地域との共存、共栄の考えのもとに、本学が提唱している「奈良学」研究を推進することで、地域の知の拠点、プラットフォームとして、価値の再発見や再生産、創造により地域に貢献することを目指しています。

本学では、奈良原唯一の総合大学の強みを生かし、歴史学・考古学・民俗学をはじめ、経営学・経営学・法学・心理学・食物学・建築学から教育学までを包括して、奈良を総合的かつ学際的に研究し、日本全体さらには世界へ、また世界から日本へ、そして奈良へと視野を広げていく学際的な「奈良学」研究を推進しています。

「奈良学」研究を核として 広がる地域連携

このような本学独自の学際的「奈良学」研究を通して、多くの地域連携の取組が進行しています。

まず、学長の強力なリーダーシップの下、教員や学生、地域の方々や「帝塚山プラットフォーム」でつながることで、自治体との協定数が増加したほか、「奈良学」関連の研究として、科

学研究費に3件が採択、受託研究も16件の実績をあげています。また、日本私立学校振興・共済事業団の「大学改革を成功に導く特色ある取組事例集」で本事業が紹介されるなど、学外からの評価が高まっています。

また、学生が研究に基づいた地域と連携したプロジェクト型学習に取り組むことで、地域社会での学習機会が大幅に増えています。これは、「実学の帝塚山大学」を標榜する本学が目指す学びのあり方にも合致するものです。

さらに、研究成果の地域への還元活動として、さまざまな公開講座やイベントを実施すること

で、「奈良学」への認知が高まっています。公開講座の来場者にアンケートを実施したところ、平成30年6月実施の公開講座「奈良学の目指すもの」では「奈良学を知っている」は49%でしたが、平成31年3月実施の公開講座「大和の近世文書」では94%と、認知度が大きく向上しています。

こうした地域の振興や、情報発信の拠点としての活動により、地域における本学の存在価値を高めるとともに、帝塚山大学「奈良学」というイメージを醸成し、本学の更なるブランディングの確立に結びつけていきます。

「奈良学」に関する各種のイベント・公開講座を実施



平成30年2月14日実施
帝塚山小学校での連携授業
「昔の暮らしを知ってみよう」の様子



平成30年10月14日開催
興福寺中金堂落慶記念 帝塚山大学文学部
「奈良学」フォーラム「祈りと復興」の様子



平成31年3月2日開催
研究報告会「シルクロード 黄金文化の道
(カフィル・カラ城発掘調査報告)」の様子



平成31年3月23日開催
三郷町共催講演会
「法隆寺の瓦を求めて～聖徳太子と古代の三郷～」の様子

奈良学の軌跡展では、故・青山茂名誉教授の提唱した「奈良学」から本学が推進する学際的「奈良学」への変遷を追いかけた。



3つの分野で研究を推進し、地域活性化や地域創生に取り組む

本事業では、「文化財・祭事」「食文化・伝統産業」「地域・コミュニティ」の3分野で学際的な「奈良学」研究を推進。その成果を研究発表やイベント、公開講座などで情報発信し、地域活性化や地域創生に取り組んでいます。



※平成29年度私立大学研究
プランディング事業申請時の資料より



平成30年2月25日開催 内蒙古考古学最新成果学術報告会「金の冠 銀のブーツ 遼代王妃墓の謎を探る」の様子

中国・内モン古自治区で平成27年に発見された中国北方の遼の第六代皇帝貴妃墓に関して、中国内蒙古博物院と共同調査を実施し、中国国外では初となる研究報告を行いました。同墓より出土したガラス器は、科学的な定量分析により、ガラスの原産地が従来考えられていた西アジアではなく中央アジアであったことが明らかになりました。出土品と正倉院宝物との類似性からも、正倉院宝物の日本への伝来ルートの解明につながる成果であると、今後の研究展開に期待が寄せられています。

中国・内モン古自治区の遼代皇帝陵出土品を手がかりとした正倉院宝物の研究
担当：文学部 牟田口章人 教授

「文化財・祭事」
奈良の歴史文化を新たな学際的視点で捉えなおす研究を推進しています。

聖徳太子関連遺跡の研究

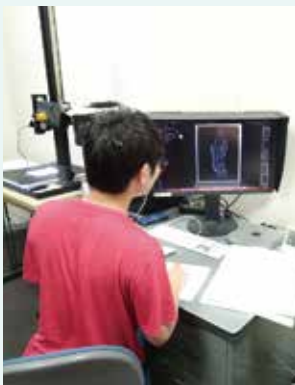
担当：文学部 清水昭博 教授

考古学の観点から今まで明らかにされてこなかった聖徳太子の業績を追究しています。法隆寺をはじめ、聖徳太子に関連する寺院や遺跡から出土する瓦などの遺物に注目し、分析・調査することによって史料では知り得ない聖徳太子の足跡を解明します。これまで、法隆寺創建瓦を生産した瓦窯の所在が推定される、奈良県生駒郡三郷町の現地調査や遺跡ウォーク、講演会や展示会などを行いました。

永野太造氏撮影のガラス乾板を手がかりとした奈良仏像史の研究

担当：文学部 鷲森浩幸 教授
服部敦子 講師

帝塚山大学が所蔵する写真家・永野太造氏撮影のガラス乾板写真資料6934枚を対象に、現物調査および保存に関わる基礎的研究を行い、戦後の奈良の寺院の活動を総合的に研究しています。ガラス乾板をデジタル画像化しアーカイブ化したことで、デジタルメディアとしての活用が可能になりました。これまでにその成果として、ガラス乾板目録を出版したほか、令和2年3月には、東京の日本カメラ博物館および半蔵門ミュージアムにて、デジタル画像をもとにした、写真パネルの特別展覧会を開催します。



高精細デジタルカメラで撮影したガラス乾板の仏像写真

令和2年3月 私立大学研究 ブランディング事業の 3年間の成果を発表

奈良学シンポジウム(仮)

【開催日時】
3月14日(土) 10時~16時

【開催場所】
奈良春日野国際フォーラム
薨~・RA・KA~

【プログラム(予定)】

- ◎ 本学の取組紹介
- ◎ 基調講演
- ◎ 「奈良学」研究の報告
- ◎ 外部評価委員講評

【展示等】

- ◎ 研究成果・資料の展示
- ◎ 織機の展示
- ◎ 五新鉄道映像上映
- ◎ 各種パネルの展示
- ◎ 大和野菜を使ったお弁当・スイーツの販売



織物講座初級編で真剣に織り機に向かう受講者

奈良県の特産品としてアピールできる大和野菜を研究対象に、栄養成分や味に関する分析を行い、地域の活性化や食文化の継承、奈良の情報発信につながる活動を行っています。大和野菜の食学的特性を明らかにすることは、同時に食べる根拠があることに繋がります。スイーツの企画・開発やレシピのネット配信などに挑戦し、大和野菜の普及を図っています。

大和野菜の食品機能性について

担当：現代生活学部

新宅 賀洋 教授
佐伯 孝子 准教授



料理教室やレシピ開発で大和野菜の普及に努めた

「食文化・伝統産業」
地域の特産である大和野菜と「奈良晒」の普及を通じて、地域のブランド化・活性化につなげていきます。

奈良晒の研究

担当：帝塚山大学 植村和代 名誉教授

江戸時代に奈良の産業として栄え、現在も形を変えて生産されている高級麻織物「奈良晒」を、理論と実践の両面から研究・展開しています。また、社会人向けの織物講座を学校教育法に定める「履修証明プログラム」として実施し、研究成果を地域に還元。その成果発表の場として、同修了生による作品展も開催しています。

奈良学シンポジウム「奈良の暮らし」の様子

永井清繁氏の絵に解説を加えた生活図誌を出版
(帝塚山大学出版会)

令和元年11月16日開催
奈良県立民俗博物館との共催企画展
「絵と道具でたどる昔の奈良の暮らし」の様子



令和元年10月19日開催 奈良学への招待 XVII 「大和『とみ』地域の古代史」の様子

奈良県生駒市高山地域などの「瓦老(古学)、神武東征説話・物部氏(古代史)、矢田寺など庶民信仰および造形文化資料(美術史)、斑鳩の民俗(民俗学)、古道の研究などをテーマに、奈良県北西部を中心とする地域の歴史や多様な文化遺産についての調査を行っています。研究成果は、奈良学総合文化研究所の公開講座等で発表しています。

担当：文学部 鷺森浩幸 教授(代表)

奈良県北西部の山・里・川と人々の営みに関する総合的な歴史・文化研究

「地域・コミュニティ」

新たな観光資源の発掘につながる研究プロジェクトを推進しています。

民俗資料や聞き取り調査による 奈良県内各地域の生活文化研究

担当：文学部 高田照世 教授

五條市の歴史的研究

担当：文学部 岩井洋 教授

奈良県五條市との包括連携協定にもつき、未完成に終わった五新鉄道(五條市)和歌山県新宮市を中心に、五條市の歴史学的研究を行っています。五新鉄道跡を運転士の視点で、ドローンにより撮影した4K映像「五新鉄道 夢列車を、研究成果として制作しました。この4K映像は、五條市立五條文化博物館ほか各所で、一般に公開されています。

活躍する卒業生

T-voice

帝塚山大学52期生



大学での学びを糧に 子どもたちとともに成長する日々

現代生活学部こども学科（現：教育学部こども教育学科）
平成31年3月卒業

さわだ みゆうき
澤田 未勇樹さん

学校法人蓮光学園パドマ幼稚園 勤務

大学時代に教育実習でお世話になったパドマ幼稚園に就職し、現在は年長クラスの副担任として、子どもたちを保育しています。早く一人で保育できるように、担任の先生の言動をよく観察し、勉強する日々です。保育の際には、子どもたちに達成感を味わってもらえるよう、何が困っていれば声をかけてサポートするように心掛けています。

先日、こんな嬉しいことがありました。入園当初、朝のバス登園時に「ママと離れたくない」と泣いていた年少のお子さんが少しずつ私に慣れてきて、大きな声で「行ってきます」とお母さんに挨拶し、笑顔でバスに乗ってくれるようになりました。そんな子どもたちが成長する姿に感動しています。また、年長の子どもたちは私が新任ということを理解してくれてか不慣れな自分に対して、「澤田先生が好きだから、お手伝いするね」と言ってくれて、子どもたちに支えられていることを実感しています。



音楽に合わせて音符の読み方を指導

大学時代に学んだ一番の思い出は、絵本の読み聞かせを丁寧にご指導いただいたことです。そのおかげで「澤田君は絵本の読み方がうまいね」と褒められ自信ができました。大学の授業の中で、実習は大切な学びのひとつです。実習に行く前は不安ばかりが先立ち、前向きになれませんでした。が、実際に子どもたちに接していると不安な気持ちはなく、何事にも積極的に取り組むことができました。また、実習を終えたあとも園の運動会や発表会などに、お手伝いや見学の機会を与えていただき、実習先の園に就職することができました。

いま、在学中のみなさんは、さまざまな将来の目標を持って勉強していると思います。その目標を達成するために、何事にも前向きに取り組んでほしいと思います。



一人で輪車に乗れるようになってもらうため、声をかけながらサポート



坂口 達哉さん

杉原 隆斗さん

・・・イオン銀行グローバルインターンシップに参加・・・

経済・経営・法3学部の連携教育プログラム「アドバンスプログラム」を受講する経済学部3年の坂口達哉さんと杉原隆斗さんが、8月にマレーシア及び東京で実施されたイオン銀行グローバルインターンシップに参加し、全国の大学生と共にイオン銀行の新たなビジネスモデルをプレゼンテーションしました。またグループワークではリーダーシップを発揮し、グループの高評価に貢献しました。



・・・奈良県の防犯活動に貢献・・・

9月19日、法学部の学生が参加するボランティア団体「あっぷりけ戦隊！奈良まもりたい」のラッピングデザインによる犯罪・非行防止支援自動販売機が奈良・東生駒キャンパスに設置されました。奈良県防犯協会からの依頼でデザインを担当することとなり、今後、県内にこの自動販売機が順次設置されます。売り上げの一部は同協会へ寄付され、防犯活動資金として活用されます。



喜多 佳佑選手

・・・レスリング部3年連続金メダリスト輩出・・・

10月25日～27日、西日本学生レスリング選手権大会が開催され、フリースタイル74kg級で喜多佳佑選手(法学部3年)が優勝しました。フリースタイル79kg級とグレコローマンスタイル77kg級では、杉原政和選手(経済学部4年)が両スタイルで3位入賞、グレコローマンスタイル55kg級では、松岡大誠選手(経済経営学部1年)が、3位入賞を果たしました。



・・・食物栄養学科生が地産地消弁当を考案・・・

10月26日・27日に近鉄百貨店奈良店にて開催された「大和路新発見展」で、現代生活学部食物栄養学科の学生5名が「大和の恵弁当」を販売しました。この取組は、奈良県の管理栄養士養成課程の学生で構成する食育サークル「ヘルスチーム奈良」の活動の一環で、奈良県産の食材で栄養バランスの整ったお弁当は、40を超える店舗が立ち並び中でも好評を博し、完売しました。



・・・令和元年度前期の学長表彰・・・

10月30日、現代生活学部こども学科4年の小林華奈江さんに学長奨励賞が授与されました。将来、社会貢献し得る人材の育成が目的である「国際ソロプチミスト奈良ーまほろば2019年度女子大学生・女子大学院生奨学金クラブ賞」の受賞、学業に臨む姿勢、学科の取組「帝塚山ロボット教室」において実行委員として活動したことなどが高く評価されて、今回の受賞となりました。



・・・若きパワーで大盛況の虹色祭・・・

11月16日・17日、奈良・東生駒キャンパスにて虹色祭が開催されました。メインステージでは、音楽やダンスなどが披露され、盛り上がりを見せました。また留学生日本語スピーチコンテストでは、中国からの留学生、孫加龍さん(経営学部3年)が、「コミュニケーションにおける雑談の大切さ」という発表で優勝しました。模擬店には一般の来場者も多く、大盛況の虹色祭となりました。

校内で留学生と英語でディスカッション 自信を持てば世界は広がる



留学生と英語でコミュニケーション

グローバル社会の中で自ら学ぶ力を身につけ、次世代のリーダーを目指すことを目的に、高校1年生を対象に行われたエンパワーメントプログラム。校内にいなから海外のトップクラスの留学生や大学院生と英語でコミュニケーションし、自分たちの進路を考える5日間です。

今年で3回目となる同プログラムは、8月5日～9日に開催され、48人の生徒が参加し、5～6人ずつのグループに分かれてディスカッションを行いました。各グループにはアメリカの大学生・大学院生がグループリーダーとして入り、生徒の意見をピックアップして補足説明。また、ファシリテーターとなった先生が、ディスカッションの内容から質問を投げかけて、議論を活性化していきました。

ディスカッションのテーマは、「将来の目標」や「日本の学校と海外の学校のルールの違い」について。話し合った内容をグループの中で発表し、議論を深めました。初日は緊張で声を出せずにいた生徒たちでしたが、大きなリアクションやジョークを交えて返してくれるリーダーにつられて次第に表情はやわらぎ、大きな声で議論する生徒も。

また、ディスカッションの合間には、全員でストレッチやゲームなどを楽しむことでリラックスし、英語でのコミュニケーションもより活発になっていきました。

そして、最終日はプレゼンテーションを行いました。2グループに分かれて、「将来の目標」について、みんなの前に立って発表。慣れない英語でのプレゼンテーションは、たどたどしさがあるものの、身振り手振りを交えて話す姿は頼もしく、この体験を通じて英語力だけでなく、アメリカの大学生たちの積極性やリーダーシップから、「自ら学ぼう、動こう」という気づきを得ました。高校の授業では、英作文の授業で自分の意見を発表する場面が増えており、今回の経験が生きてくるはずです。

なお、本学では、中高6年間の系統的なプログラムを用意しており、エンパワーメントプログラムは、その一環として実施しています。高校2年になるとポストンへの研修旅行と、段階を踏んで継続的に英語教育と外国人との交流を図り、豊かな言語力やコミュニケーション能力、主体性や積極性、異文化理解の精神を養っていきます。





・・・NHK杯で制作奨励賞を受賞・・・

7月22日～25日、国立オリンピック記念青少年総合センターとNHKホールで開催された第66回NHK杯全国高校放送コンテストに、放送部から3作品・4人が出場し、13年連続出場を果たしました。テレビドキュメント部門では、作品名「学びたい、そして未来へ」が準決勝に進出し、制作奨励賞を受賞。今後の作品づくりに期待がふくらみます。



・・・全員が団結！中高体育祭・・・

10月2日、中学校と合同で体育祭を行いました。池辺政人校長は開会式で、ラグビーワールドカップの話を引き合いに「One for all, All for one」の言葉を紹介し激励。華やかで凛とした女子ダンスや力強い男子集団演技、先生と生徒と一緒に取り組む学年企画に、最後の800mリレー決勝と、全員が一つの目標に向けて力を合わせた体育祭となりました。



・・・おもてなしの心で呈茶席を開催・・・

11月9日、茶道部が大和文華館ロビーにて学園前アートフェスタのイベントの一環で、呈茶席を開催しました。当日はアートフェスタに訪れた、お客様一人ひとりにお茶を点て、おもてなししました。生徒たちは日頃から練習している礼儀作法やおもてなしの仕方を実践し、おもてなししている間も、お客様の状況を見極めて臨機応変に対応するなど、一人ひとりの役割を果たしました。



生駒 侑子さん 岡本 深里さん

・・・第70回奈良県高等学校 英語弁論大会で入賞・・・

9月21日、奈良県社会福祉総合センターで開催された第70回奈良県高等学校英語弁論大会で、2年の生駒侑子さんが3位、岡本深里さんが5位入賞しました。生駒さんは、イギリス留学を通じて自分の夢について考えたことを発表。岡本さんは、自動車王ヘンリーフォードの名言から成功の秘訣を知ったことを発表しました。



・・・舞台演出に引き込まれた「罪と罰」・・・

10月30日、1・2年生がやまと郡山城ホールにて、劇団うりんこが主催する「罪と罰」を鑑賞しました。「罪と罰」はロシアの文豪ドストエフスキーによる有名な長編小説ですが、舞台ではテンポよく展開が繰り広げられ、殺人を犯した主人公が、罪の意識に追い詰められていく様が、見事に演出されていました。時に笑いを誘う場面もあり、楽しい芸術鑑賞となりました。

令和2年度

生徒募集要項

試験日：令和2年2月6日(木)

募集人員：340名(帝塚山中学校からの内部進学者を含む)うち、外部中学校からの募集人数は以下のとおりです。

男子英数コース・英数クラス	約15名
女子英数コース・英数クラス	約15名
女子特進コース	約30名
	計約60名

出願期間：令和2年1月14日(火)～

令和2年1月26日(日)

※詳細はホームページをご覧ください。

帝塚山大学ヘルスチーム菜良と
中学食堂メニューを考案



ぶどうゼリー/レシピ

【材料】5人分

- ◎ 果汁 100% ぶどうジュース (砂糖無添加) 500ml
- ◎ アガー 10g
- <トッピング>
- ◎ ヨーグルト
- ◎ アロエ

【作り方】

1. ジュースを鍋に入れ、泡立て器で攪拌しながら、徐々にアガーを加え均一に混ぜ合わせてから 1~2分沸騰させる。
2. 粗熱をとってカップへ流し込む。
3. パットにカップを並べて氷水を張り、冷蔵庫へ。
4. 冷えたら、ヨーグルトとアロエをのせる。

※ポイント

しっかり攪拌すること・しっかり沸騰させること

生徒会執行部と総務委員会は、食育活動に取り組み帝塚山大学の「ヘルスチーム菜良」(現代生活学部食物栄養学科)と協力し、中高食堂の新しいメニューを開発しました。この企画は、生徒会執行部から「食堂に自分たちが考えたメニューを出してほしい」との要望を受けて、ヘルスチーム菜良が協力し、旬の食材や栄養学を学ぶことを目的として、平成28年度から中学校と大学との連携事業として実施されています。

今回の企画は、5月に食材の選定からはじまり、総務委員会とヘルスチーム菜良とがメニューを提案。中高食堂で調理可能なメニューに絞り、ぶどうゼリーを作ることを決め、トッピングする食材の候補をあげていきました。

9月14日、中高の調理室で実施した「試作会・試食会」には、生徒会執行部と総務委員会のメンバー、3年生3人と1年生8人、ヘルスチーム菜良の1年生2人が参加。ヘルスチーム菜良が作成したレシピをもとに、全員でぶど

うゼリーの調理をスタートしました。調理の合間には、ヘルスチーム菜良の学生がクイズを実施。わかりやすい解説もあり、生徒たちは楽しく食材について学ぶことができました。

完成したぶどうゼリーを全員で試食した結果、トッピングする食材はアロエとヨーグルトに決定。

「食材選びやメニューを決める会議では、みんなの意見をまとめるのが大変でした」と苦労を話す総務委員長の高比羅愛来さんと副委員長鈴木琴絵さん。試食した生徒は「意外な組み合わせでしたが、おいしかった」と感想を話しました。生徒たちは、大学生や食堂の方々と交流を通じて、メニュー開発の大変さや完成時の喜びを実感していました。ぶどうゼリーは、10月16日から中高食堂で期間限定販売され、人気の一品となりました。





・・・高円宮杯 全日本中学校英語弁論大会県予選優勝・・・

9月19日、大和高田さざんかホールで開催された全日本中学校英語弁論大会の奈良県予選に、英語部3年の三船あか梨さんが弁論部門で出場。「認知症の祖母と家族との葛藤」について発表し、優勝しました。この大会は、国際人養成のために開催される国内最高レベルのスピーチコンテストといわれており、三船さんは11月末に東京で開かれた全国大会に出場しました。



・・・自ら考え、発表する難しさを学んだ・・・

10月7日、3年生が「グローバルキャリアのための探求活動ポスター発表会」を行いました。全部で104のさまざまなテーマの発表があり、発表後「ポスターとしてまとめるのに苦労した」「話すときに惹きつける事が難しかった」など苦戦した一方で、「楽しくできた」「とても勉強になった」と感想はさまざま。自分たちで考え、発表する、貴重な体験となりました。



・・・英語スピーチコンテストと暗唱大会で好成績を収める・・・

11月3日、第27回薫英杯女子中学生英語スピーチコンテストで、3年の甲斐真優花さんがジャパントイムズ賞を受賞しました。ジャパントイムズ賞とは、同大会の4～6位に与えられる賞です。また11月7日には、奈良県立法隆寺国際高校主催「第15回中学校招待英語暗唱大会」に2年の中林樹里さんが出場。奈良県下19の公私立中学校からの出場者中6位に入賞しました。



橋本 有平さん

作品名
[made in Osaka]

・・・絵画コンクールで環境大臣賞を受賞・・・

第34回「WE LOVE トンボ」絵画コンクールで、美術部で部長の3年、橋本有平さんが、環境大臣賞を受賞しました。「小さい頃から絵を描くことが好きだったので、全国での自分のレベルを知りたくて、今回の絵画コンクールに応募しました。」と橋本さん。「将来の夢は医師になることですが、好きな絵を描き続けたいと思います。」と笑顔で話してくれました。



・・・生徒が自主的にスポーツ大会を運営・・・

10月30日、中学校スポーツ大会を開催しました。競技種目は男子が第2グラウンドでソフトボールやフットサル、女子はグラウンドと体育館でフリスビーなど。いずれも白熱した試合が繰り広げられ、熱い応援の声が飛び交っていました。この大会は生徒たちが主体的に、企画・準備から運営、片付けまで、自分たちで行っており、自主性を養い、フェアプレーの精神を学ぶ良い機会になりました。

令和2年度
生徒募集要項

試験日：1次A入試・1次B入試
令和2年1月18日(土)

2次A入試/令和2年1月19日(日)

2次B入試/令和2年1月20日(月)

募集人員：男子英数コース

スーパー理系選抜クラス 1学級
英数クラス 2学級

女子英数コース

スーパー選抜クラス 2学級
英数クラス 2学級

女子特進コース 2学級

計300名(帝塚山小学校からの内部進学者を含む)

出願期間：令和元年12月10日(火)～

令和2年1月10日(金)

※詳細はホームページをご覧ください。

心に合わせて、奏で、歌う
思い出に残る音楽祭



心をつつして歌い上げる

10月25日、第47回帝塚山小学校音楽祭を、奈良県文化会館国際ホールで開催しました。

児童たちは、各クラスごとに選曲された2曲を、6月下旬より練習し始めました。また、指揮と伴奏は、全てその学級の児童たちです。音楽の授業以外にも、朝の会や終わりの会の時間を利用して、毎日練習を重ねてきました。特に高学年は、高音部・低音部のパート別にリーダーを決め、自主的に練習を重ね、この日を迎えました。

当日は吹奏楽部の演奏からスタート。最初に部員が大好きだという米津玄師さんの「ピースサイン」で、息のあった演奏を聴かせてくれました。続いてコーラス部は、先生と児童たちが猫耳をつけて登場し、合唱曲「わたしはこねこ」を披露。コーラス部らしい素晴らしいハーモニーが会場に響きわたりました。

各クラスのコーラスは、初々しい1年生から、元気のある2、3年生、表現力が増した4、5年生と続き、6年生の完成度の高いハーモニーに、会場は割れんばかりの拍手。舞台を終えた6年生は、「練習は大変だったけど、いい思い出になりました」「緊張したけれど、やり切りました。練習に時間をさいてくださった先生に感謝しています」と話してくれました。

第一部と第二部の間に登場した和太鼓クラブは、今年4月に結成されたばかりにも関わらず、見事なバチさばきを披露。舞台上上がる前は、すくすく緊張したけれど、最初の一バチを打った後、何もかも忘れて打ち込みました」と話してくれました。

児童のコーラスも終わり、ラストはスペシャルゲストによる演奏。出演者はシークレットでしたが、幕が上がると先生たちが登場し、児童たちは大盛り上がり。少しとたとしさがあがりながらも、一生懸命、先生たちが演奏している姿に大きな拍手が湧き、振付けを交えて歌う「USA」などには、アンコールの声もあがったほどでした。

観客の保護者の方々は、「高学年のハーモニーが素晴らしい」「家でYouTubeを見て練習していました」「1年生の子どもの初めての舞台、立派に歌っている姿を見て感動しました」と喜んでおられました。児童たちも保護者の方々も、そして先生たちも思い出深い一日となったことでしょう。





・・・自分たちで考えて綺麗に・・・

そうじボランティアは、先生に指示されなくても、自分で考えて行動する清掃活動です。9月4日のそうじボランティアの日には、低学年は、廊下や階段を担当。床を雑巾がけしたり、すき間に残るほこりを拭きました。一方、高学年は、運動場とプレイグラウンドで、夏休みの間に伸びた雑草を丁寧に引き抜きました。



・・・ものづくりの現場を知る授業・・・

9月9日、ものづくり体験学習の一環として、今年もダイハツ工業株式会社の方々に、体育館で自動車の組立工程や塗装工程を再現していただきました。流れ作業工程では、完成車が出来るまでを、塗装工程では、塗装用スプレーで車体に水を拭きかける作業を体験。実際の自動車部品にふれ、ものづくりの一端を知る一日になりました。



・・・まちではたらく人々から学ぶ・・・

3年の社会科では、私たちのくらしとまちで働く人々について学習しています。9月19日に、その一環で近鉄奈良駅前の東向商店街に出かけ、働く人たちに焦点をあてた学習に取り組みました。学習課題の一つめは、お店を自分の目で確かめ、ノートに書き込んでマップを完成すること。二つめは、接客や商品を並べる様子などを見て、働くことの意義を考えました。



・・・教育実習生と積極的に交流・・・

9月中旬から約1か月間、各学級で教育実習生を迎えました。今年度は、帝塚山大学の学生と本校卒業生の計5名が教育実習にきました。休み時間にめいっばい遊んでくれるだけでなく、朝は担任の先生とともに明るい挨拶で迎え入れてくれ、授業で手が止まっていると声をかけてくれる教育実習生のやさしさに、児童たちも心を開き、積極的に交流していました。



・・・黄組が優勝！小学校運動会・・・

10月14日、時折雨が降る中、運動会が行われました。開会式では、野村至弘校長が、ラグビーワールドカップ日本代表チームの試合に例え、「ルールを守って全力で頑張る事が大事」と激励。各学年の徒競走や団体演技が次々と繰り広げられ、全児童が参加した綱引きや四色対抗リレーでは、各組の団結力を競い、まさしく全校児童が一丸となって、力を出し切った運動会でした。

令和3年度入学生対象

体験入学・入学説明会

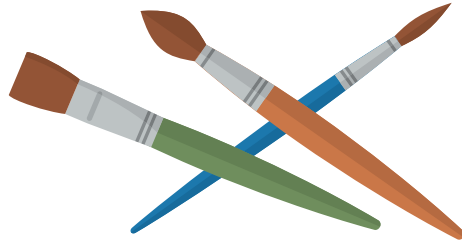
第2回 年中児対象体験入学

日程:令和2年1月18日(土)
内容:「忍者学校」など2つの体験授業
定員:50名 ※定員に達し次第受付終了

第1回 入学説明会

日程:令和2年2月8日(土)
内容:本校の根っこを鍛える教育について

※詳細はホームページをご覧ください。
※お申し込みは、ホームページの「申し込みフォーム」に必要事項をご入力いただきお申し込みください。



一生懸命、粘土をこねて お皿や動物の置きもの作り



かわいい作品が目を引く年少組の動物の置きもの



個性豊かな作品が揃った年中組のお皿

11月6日、幼稚園の年中組で陶芸教室が開催されました。当日は、雅工房から豆川雅比古先生にお越しいただき、粘土でお皿づくりの挑戦。完成した作品は、年末の恒例行事となっている制作展に出品します。

まず、豆川先生の説明を聞き、丸い粘土をテーブルに置き、一人ひとりの園児が力を込めてこね、手のひらで叩いて、粘土を平たくして伸ばし、お皿の形を作りしました。

お皿の形ができたら、次は絵付けです。好きな色の絵具と筆を先生から受け取り、お皿の全面に色を塗ったり、大きな顔を描いたり、丸や三角を描いたりするなど、思い思いに絵を描いていきました。そして、絵付けまでできたお皿は、豆川先生が持ち帰り、焼き上げてくださいました。

約3週間後に焼き上がったお皿を見た園児たちは、「すごくきれいにできたね！大事に使うね」と喜んでいました。

担任の竹本先生は、「子どもたちは粘土の感触を喜び、楽しく作っていました。出来上がったお皿は、制作展後に、お家で飾ったり使ったりしてもらえると嬉しいですよ」と話してくれました。

また11月11日には、年少組でも陶芸教室が開催されました。こちらも豆川先生にお越しいただき、動物の置きもの作りに挑戦。粘土のかたまりをつまんでギューと絞り出すようにして動物の首や手足を作る方法に、最初はみんな戸惑っていましたが、少しずつ慣れてきて、キリンやウサギ、カメなどの動物が完成していきました。できあがった園児から筆を使って彩色し、年少組の置きものも焼き上げた後、届けていただきました。

園児たちは、「楽しかった」「粘土に色を塗るのが面白い」とそれぞれの感想を口に、作品を見た保護者の方々は、「こんなに上手に作れるのね」と、お子さんの成長ぶりに感心していました。

これらの陶芸体験を通じて、園児にはモノづくりの楽しさを知ってもらい、創造性を養う良い機会となりました。





・・・自分だけのオリジナル藍染体験・・・

9月18日、園児たちの探求心を養うことを目的とした、年長組のわくわくどきどき講座の時間に、藍染を体験しました。最初は「藍って、どんな植物かな」と不思議な顔で見ていた子どもたちですが、藍の葉をミキサーにかけて絞ると、緑色の染料が大量に出てきたり、布を絞って浸すとキレイな模様が浮かびあがる様子に目を輝かせていました。



・・・不思議がいっぱい！親子でサイエンス教室・・・

9月28日、帝塚山中学校高等学校の理科教諭、樋間聡先生による、楽しいシャボン玉の実験の数々を、親子で体験しました。なかなか割れない「ながもちシャボン玉」や三角形や四角形の「いろんな形のシャボン玉」に園児たちは夢中。日頃遊び慣れたシャボン玉が、「不思議なシャボン玉」に変わる瞬間を、園児たちだけでなく、保護者の皆様も楽しんでおられました。



・・・笑顔がいっぱいのお芋掘り・・・

10月24日、社会福祉法人こまどり会 喜蔵庵にて、お芋掘りを体験しました。土が固くて、なかなか手だけでは掘ることができませんでしたが、施設の方の協力も得て一緒に掘り進めると、徐々にお芋の顔が。あちこちから「おっきいおいもとれた〜」と、歓声とともに満点の笑顔が広がりました。時折小雨が降る中でも、園児たちは元気にお芋を掘っていました。



・・・日本の伝統・和菓子作りに挑戦・・・

10月26日、創業1882年の老舗京菓子店「御菓子司 塩芳軒(しおよしけん)」の高家昌昭さんを講師としてお招きし、「親子で和菓子作り教室」が開催されました。和菓子は、四季折々の季節を感じさせる物を題材に用います。三角ペラを使って紅葉などを作る実演では、参加者から感嘆の声が上がり、日本の伝統的な和菓子作りを体験できる貴重な機会となりました。



・・・たくさんの笑顔が弾けた運動会・・・

10月20日の運動会では、「今日まで一生懸命がんばった練習の成果を、ご家族の皆さんに見ていただきましょうね。」との塚本真紀園長の開会式の言葉通り、かけっこから綱引きまでの種々のプログラムを、園児たちは一生懸命披露しました。リズム体操「ゆかいなかえる」や「みつばちマーヤ」では、それらのお話を元気いっぱい演じ、ご家族から温かい拍手が送られました。



・・・奈良の大仏さまについて学ぶ・・・

10月30日、年長クラスの園児たちは、帝塚山大学客員教授の西山厚先生から、大仏さまのお話を聞かせていただきました。「大仏は何でできているの?」などのクイズを出題した後、かつて大仏が火事で焼失し作り直したことや、先生が大仏の中に入った思い出など、楽しいお話をしていただき、園児たちは奈良の歴史に興味を持った様子でした。



帝塚山アーカイブズ

シリーズ4回目の帝塚山アーカイブズ。前号では、昭和16年の中学校開校(地鎮祭)から、当時のキャンパスの様子や貴重な円型校舎の写真を通して、本学の変遷を紹介してきました。4回目となる今回は、昭和50年代以降のキャンパスの様子や各種行事を紹介します。次号では、大学・短期大学の各年代の写真を紹介し、令和3年の80周年につなげていきます。

●昭和16年
帝塚山学園設立
帝塚山中学校開校(男子5年制)
校舎地鎮祭

▶ ●昭和22年
学制改革により
新制中学校を設
置(共学)

▶ ●昭和23年
新制高等学校を
設置(共学)

▶ ●昭和33年
関西初の円型校
舎が話題を呼ぶ

▶ ●昭和54年
中高特別教室棟
の新築

▶ ●昭和56年
創立40周年

▶ ●平成26年
最後の円型校舎
お別れ

▶ ●令和3年
創立80周年



昭和52年の体育祭の様子

幼稚園から短大まで全学あげての学園体育祭にて、すっかり体育祭の名物となった「エッサッサー 青春蛮歌」を力強く披露。昭和30年代後半から高校生男子全員が参加した。



昭和54年 学園前キャンパス全景(航空写真)

昭和56年の学園創立40周年にむけて、記念事業の一環で、中高特別教室棟の新築、短大校舎の増改築を行った。



昭和56年 高等学校卒業記念 第35期卒業式のと、はとの広場に全員で記念撮影。



昭和57年 森磯吉先生「顕彰碑」(昭和41年設置)の前で談笑する高校生たち



平成7年 中学校卒業式

第2円型校舎の講堂で行われた中学校卒業式。「大地讃頌」を卒業生全員で合唱。



平成28年 FLL世界ロボット大会(スペイン) に出場

中高理科部ロボット班が、スペインで開かれたFLL(ファースト・レゴ・リーグ)世界ロボット大会で「アントレプレナーシップ賞」3位入賞。世界40ヶ国から116チームが参加し、日本からは本校だけが参加した。



平成26年 最後の円型校舎にお別れ 卒業生ら1,000人集う

昭和31年から36年にかけて建てられた内の最古で最後の第1円型校舎が、老朽化のため建て替えられることになった。お別れ会では1,000人を超す卒業生らが集い、懐かしい学び舎で名残を惜しんだ。



帝塚山学園同窓会創立 70 周年記念 令和元年度 同窓会総会・特別講演会・懇親会を開催

8月25日、帝塚山学園同窓会創立70周年記念総会・特別講演会と懇親会を帝国ホテル大阪で開催しました。本年度は同窓会創立70周年の記念すべき年にあたり、近年では最も多い会員182人が参加しました。また来賓15人と多くのご出席をいただき、記念大会に相応しい盛大な会となりました。

総会では、綿谷基同窓会会長(23期)が議長になり、平成30年度の事業報告と決算、令和元年度の事業計画案と予算案、役員改選案、学園創立80周年記念募金の寄付の4議案を上程し、原案通

り満場一致で承認されました。

引き続き開催した特別講演会は、講師に帝塚山大学、近畿大学、京都美術工芸大学非常勤講師で、橋口建築研究所を主宰する橋口新一郎氏(45期)をお招きし、「[ほんのあたたなてしごと]」の講話に出席者は熱心に聴き入っていました。

場所を移しての懇親会には、山本順英名誉理事長、吉川勝久理事長、松岡正格常務理事、池辺政人校長、恩師などの来賓をお迎えし、会は盛況のうちに終了することができました。



有終完美の三期生友の会開催

9月21日、毎年開催して今年で69回目となる三期生友の会を、大阪市内の料理店で開催しました。当日は11人の出席があり、遠方名古屋から駆け付けてくれた旧友もいました。なお、運営上の都合を勘案して、今回でこの会は有終完美とし、来年からは本部総会に出席し、再会する事になりました。



高校16期同窓会を開催

10月10日、高校16期生の同窓会を古希同窓会以来、7年ぶりに大阪市内のシェラトン都ホテル大阪で開催しました。今回は、遠く横浜市や山梨県甲斐市から来阪してくれた同窓生を含む39人が出席。会場は参加者同士の思い出話や近況報告などの話し声や笑い声が響くなか、校歌や祝歌茜雲の合唱などが続き、久しぶりの旧交を温めたひとときでありました。会の終わりには、次回の幹事も決定し、再会を誓い合い、めでたくお開きとなりました。



高校56期同窓会を5年ぶりに開催

11月3日、5年ぶり2回目の高校56期生の同窓会を母校で開催しました。当日は、恩師の吉岡利晃先生、山口哲夫先生、豊田美代子先生、岩間愛久先生のご出席のもと、遠くは東京から参加してくれた同窓生をはじめ40人が懐かしい中高食堂に集まりました。30代半ばということで、子育てや仕事に忙しい少ない人数でしたが、懐かしい食堂メニューをいただきながら帝塚山在学中のエピソードや仕事の話、育児の話など歓談の輪が広がり、あっという間の3時間でした。



文楽11月公演「心中天網島」を鑑賞

11月10日、令和元年度の文化行事として、国立文楽劇場11月公演「心中天網島」を鑑賞しました。当初は家族も含めて100名の定員でしたが、申し込み者が多く最終的に劇場のご厚意で150名の定員に増員していただきました。当日は一人の欠席者もなく全員が参加。公演に先立ち文楽の関係者より文楽鑑賞入門セミナーを実施いただきました。その後、「心中天網島」を鑑賞し、近松門左衛門の名作と演者の熱演に釘付けになり、参加者からは多くの好評をいただきました。



学校法人**帝塚山学園**
Tezukayama Gakuen



「**T-time**」を
スマートフォンで！
スマートフォンなどでも、
お楽しみください。